

留学を終えて

聖マリア女学院高等学校 山田 香乃

(ニュージーランド)

私がニュージーランドに留学してから、もう一年がたってしまいました。この一年間で私が体験したことをホームステイ生活、休日の過ごし方、学校生活の3つに分けて話していきたいと思いません。

<ホームステイ生活>

私のホストファミリーは私をいろいろなところに連れて行ってくれました。例えば、習い事のバレエだったり、ホストマザーやファザーの実家に行ったり、ショッピングに連れてくれたりしました。習い事のバレエでは、毎週火曜日にホストファザーが送り迎えをしてくれました。私は、日本でもダンスをやっていたのですが、ニュージーランドのバレエは、しなやかな感じで今までやったことのない踊りで、同じような振り付けだったので、覚えにくくて苦戦をしていたけど、だんだん慣れてきて、ふりも覚えられるようになりました。だから毎週楽しんで通うことができました。

また、ホストマザーやファザーの実家では、山や海などいろいろなところに連れて行って、ニュージーランドの自然を肌で感じることができました。ニュージーランドは日本のようにじめじめしてなくて乾いた天気なので、自然豊かな場所に行くとマイナスイオンが感じられ心地よかったです。



私をいろいろなところに連れて行って、家族の一員として接してくれた私のホストファミリーにとっても感謝しています。またニュージーランドに行く機会があったら、もっと英語力を高めてから会いに行きたいなと思いました。

<休日の過ごし方>

私が印象に残っている休日の過ごし方は、バレエの発表会と友達とショッピングに行ったことと最終日のホストシスターとホストブラザーのダンスやドラムです。

バレエの発表会では、二つの曲をやらせていただきました。1つ目は、会の始まりの一曲をやらせていただきました。2つ目は、ちょっと暗めな曲をやらせていただきました。バレエの先生は私のわからないところのふりを丁寧に教えてくれました。もともと覚えが悪いのに、似たような振り付けばかりでさらに覚えられなくて苦戦しました。ニュージーランドで習ったバレエはしなやかで今までやったことのない感じだったので、新しいジャンルのダンスの挑戦できて、これからのダンスにつなげていけるようにしていきたいです。

友達と出かけるときはシティに行ったり、ショッピングモールに行ったりしました。自分たちで行きたいところを考えて自分たちでいろいろなところに行きました。私が留学している間、日本ではタピオカが流行していたと聞いてニュージーランドにもたくさんのタピオカ屋さんがあるので、いっぱいタピオカを飲みました。

最終日は、ホストシスターのダンスとホストブラザーのドラムを見ました。ダンスは今までたくさん見てきたけど、これが最後なんだなと思いながら、しっかりと目に焼き付けることができました。ドラムは、あまり見る機会がなかったので、最後に見ることができてよかったです。



<学校生活>

私は現地の高校と最後の3週間だけ語学学校に行きました。

現地の学校で思い出に残っているものは、MOOVIT と家庭科でのカップケーキのコンペティションです。MOOVIT とはダンスの発表会に事です。週に2回ほど学校の放課後に練習をしていま

した。いました。Year 9から Year 13までやりたい人ならだれでも参加することができます。MOOVIT ではいろんなジャンルのダンスを踊ることができて、たくさんのお話を吸収することができました。本番は2回公演で、どちらもとても温かい声援が来て、うれしくなりました。家庭科でのカップケーキのコンペティションは、ペアを作って自分たちで好きなカップケーキを作っているというものでした。私たちは、ミッキーのカップケーキを作りました。本番で作ったチーズフォームがカップケーキとあまりマッチせず、あまりおいしくないとペアの子と話していたことが印象に残っています。

語学学校は、当たり前だけど毎日英語しか練習しないので少しは英語が上達したのではないかと思います。同じ年代で同じぐらいの英語力の子の集まりなので楽しく授業することができました。

この一年間は私にとってとっても成長することのできた1年になったと思います。留学に行かせてくれた親や、私を受け入れてくれたホストファミリー、留学を応援してくれたすべての人に感謝の気持ちを忘れずに過ごしていきたいです。

